

# お茶の水女子大学の教員評価 の現状と課題

国立大学法人お茶の水女子大学  
郷 通子

# 内容

- I. お茶の水女子大学の概要
- II. お茶大の教員評価の現状
- III. お茶大の教員評価の問題点
- IV. お茶大の教員評価の今後の課題

# I . お茶の水女子大学の概要

# 学生数

(平成20年5月1日現在)

## 学部

文教育学部	1,008名
理学部	591名
生活科学部	587名
(学部合計)	2,186名

## 大学院

博士前期課程	559名
博士後期課程	500名
(大学院合計)	1,059名

# 教職員数

(平成20年5月1日現在、括弧内は女性比率)

教授(特任教授含む)	116名	(40.5%)
准教授(特任准教授含む)	84名	(41.7%)
講師(特任講師含む)	29名	(75.9%)
助教(特任助教含む)	21名	(71.4%)
助手	1名	(100%)
リサーチフェロー(特任リサーチフェロー含む)	18名	(83.3%)
アソシエイトフェロー(特任アソシエイトフェロー含む)	19名	(94.7%)
附属学校教諭	84名	(57.1%)
栄養教諭	1名	(100%)
保育士	4名	(100%)
その他職員	97名	(34.0%)
(合計)	474名	(50.4%)



# 国立大学法人評価委員会による 国立大学法人の評価

## 1 全体評価

## 2 項目別評価

### I.業務運営・財務内容等の状況

#### (1)業務運営の改善及び効率化

- 1 運営体制の改善
- 2 教育研究組織の見直し
- 3 人事の適正化
- 4 事務等の効率化・合理化

#### (2)財務内容の改善

- 1 外部研究資金その他の自己収入の増加
- 2 経費の抑制
- 3 資産の運用管理の改善

#### (3)自己点検・評価及び情報提供

- 1 評価の充実
- 2 情報公開等の推進

#### (4)その他業務運営に関する重要事項

- 1 施設設備の整備・活用等
- 2 安全管理

### II.教育研究等の質の向上の状況



# 国立大学法人お茶の水女子大学の平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

- ・ 学長のリーダーシップと戦略的な大学運営：「文理融合 世紀型リベラルアーツ」から「新たな大学院の創成 に至る 21世紀型お茶の水女子大学モデル」の構築を長期戦略にすえ、今後の進むべき方向性の明確化。
- ・ 監査機能と経費の抑制： 監査室の設置と内部監査の実施。納入業務の迅速化と管理経費の抑制。目標設定を行い予算段階で対前年度比1%以上の削減を行うなど、経費の抑制。
- ・ 「企画経営統括本部」の設置： 学長の下に 戦略的・重点的事項について調査・分析企画立案を行う、入試広報、公開講座等の企画立案等の活動を開始。また、教員の活動状況をデータベースに収集し、これを点数化することにより、勤務実績の評価を昇給等の処遇にも反映させており、他大学も参考にできる先進的な取組として評価でき、今後の適切な運用に期待される。
- ・ 外部資金獲得： 研究費の配分においてインセンティブ比率を設け、外部資金の獲得努力を反映、科学研究費補助金の獲得額の増加に成果。一般管理費比率の低下に成果。
- ・ 教育研究の質の向上： 引き続き、寄附講座「チャイルド・ケア・アンド・エデュケーション」を開講し、現職保育士等の研修のほか、アフガニスタンの指導的女性教育者のための研修事業など、大学のミッションである「女性リーダー」育成の取組に注目。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化

【評定】中期目標・中期計画の達成に向けて**特筆すべき進捗状況**にある。

(理由) 年度計画の記載44 事項中すべてが 年度計画を上回って実施している 又は 年度計画を十分に実施している」と認められるほか、**教員の業績評価に関して先進的な取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。**



## Ⅱ．お茶大の教員評価の現状

# 教員活動評価の目的

- 教育研究活動等のもっとも基礎的な主体である個々の構成員のレベルで、教育研究活動の質を保証し、そのいっそうの向上に資する

(「国立大学法人お茶の水女子大学 個人活動評価要綱」より)

# 教員活動評価の内容

- 領域別評価と総合評価から構成
- 領域別評価：  
教育、研究、社会貢献、大学運営・経営の  
4領域について個別に評価
- 総合評価：  
上記4領域における活動状況を総合的に  
評価

# 教員活動評価の原則

## (1) 客観性

活動の質の数値化

## (2) 質的評価の担保

数値化された情報だけでなく、自己評価、外部評価の記述も加える

## (3) 単純性

評価項目数を一定数に制限（お茶大：104項目）  
評価結果の分かりやすさ、評価コストの抑制

## (4) 多元性の確保

例えば、評価項目は、研究・教育分野の多様性を配慮  
大学運営は、教授と教授以外の集団に分けて評価、など

# 評価結果

- 評価を受けた個人にフィードバック
- 個人情報保護に配慮しつつ、WebやAnnual Report等で公開
- 給与査定に反映  
(年1回、1月の定期昇給時)

# 評価対象期間

- 教育(前年度)
- 研究(前年度までの5年間)
- 社会貢献(前年度までの5年間)
- 大学運営・経営(前年度)

# 評価点と相対評価ランク

- 評価点：データベース入力情報のうち、評価対象項目を定めて加点
- 相対ランク：  
I(5%程度)、II(20%程度)、III(75%程度)
- 研究：大学院前期課程専攻内での相対評価
- 教育・社会貢献：全学相対評価
- 大学運営・経営：職位別相対評価  
(教授集団とその他の集団に分ける)

# 評価の年間スケジュール

3～4月 前年度実績をデータベースに入力

6月 データの一部をAnnual Report  
として公表

12月 前年度実績の評価点集計

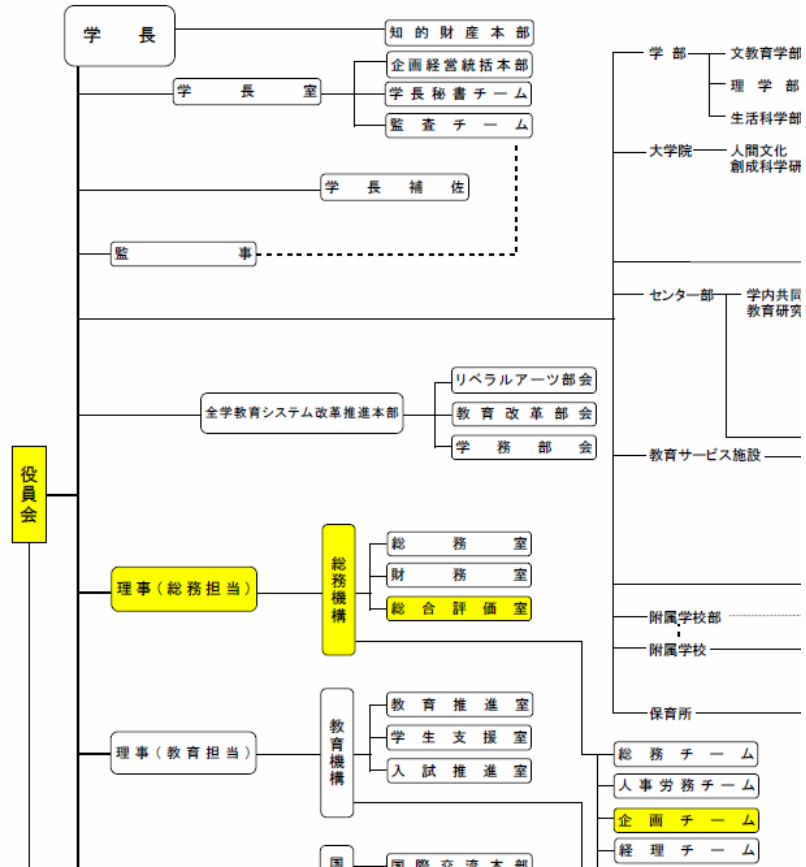
(研究は前年までの5年、社会貢献は前年度までの5年間)

(翌年)1月 定期昇給に反映



# 評価の体制

- 教員：総合評価室  
室長1名  
室員6名
- 事務職員：企画チーム  
チームリーダー1名  
評価係3名



# 教員活動状況データベース(New-Era)

- 入力対象者：学長、理事、常勤の教員  
（外部資金雇用者も含む）
- 教員活動状況データベースに係る費用  
導入経費 約410万円  
保守費 約6万円/月

# データベースの入力

- 実際の入力画面例  
 (入力は学内からに制限)

■教員情報 ■教員情報2

仮	職員番号	氏名(漢字)	研究用氏名(漢字)	所属
1	1	東京 慎太郎	新宿 太郎	文教育学部人文科学
2	2	神奈川 純子		文教育学部人文科学

データ選択グリッド

< ⑦ >

選択 Help

職員番号

氏名(漢字)

研究用氏名(漢字)

所属  ⑧ 内容参照

性別 男 ▾

生年月日(西暦: yyyy/mm/dd)

主な研究発表

最近の研究発表日  ⑨ 加/減

写真添付  参照  参照  参照  参照

⑤ 非公開  
公開  
⑥ 非公開  
公開  
⑦ 非公開  
公開  
⑧ 非公開  
公開  
⑨ 非公開  
公開  
⑩ 非公開  
公開

⑥ 上記データを ○非公開 ●公開

① 新規保存 ② 訂正保存 ③ 削除 ④ 仮登録

情報入力フォーム

# 入力項目と評価点 (研究カテゴリーの例)

「研究」カテゴリ評価点算出式

<総合・複合・融合・学際領域を含み文理一般>

分類	入力項目	評価点算出式
学術著書(単著)	著者名	0.12点 × 総ページ数
	書名【必須】	
	出版機関名	
	総ページ数【必須】	
	発行年【必須】	
	発行月【必須】	
	分類【必須】	
	ReaD研究業績種別	
学術著書(全体共著)	ReaD研究業績への掲載可否	0.08点 × 総ページ数
	著者名	
	書名【必須】	
	出版機関名	
	総ページ数【必須】	
	発行年【必須】	
	発行月【必須】	
	分類【必須】	
学術著書(編書・編著書)	ReaD研究業績種別	0.05点 × 総ページ数
	ReaD研究業績への掲載可否	
	編者・編著者名	
	書名【必須】	
	出版機関名	
	総ページ数【必須】	
	発行年【必須】	
	発行月【必須】	
学術単行書籍(分担参加)	分類【必須】	2点/本
	ReaD研究業績種別	
	ReaD研究業績への掲載可否	
	著者名	
	章名、論文題名、項目など	
	編者名	
	書名【必須】	
	出版機関名	
	担当ページ	
	発行年【必須】	
	発行月【必須】	



# 教育カテゴリーの評価項目

評価項目		評価点算出の対象となるデータ
学生指導	修士・博士課程主指導学生データ	学生数、学会発表回数、学会誌発表数
	博士課程副指導学生数	学生数
	課程博士論文審査学生数	学生数
	論文博士論文審査数	審査数
	修士論文審査学生数	学生数
	卒論指導(主査)学生数	学生数
	国内研究生その他指導学生数	学生数
授業担当	大学院博士課程担当	単位数、担当比率
	大学院修士課程担当	単位数、担当比率
	学部担当	単位数、担当比率
	学部担当(学生による授業評価)	点数評価は行わない
	他大学での授業	単位数
教育実習指導等	自由記述	件数
教育の改善	企画した研修会	件数
	運営に参加した研修会	件数
	教育活動に対する受賞	件数
	学生募集活動への参加	件数
その他活動	各種学生相談	学生進路相談件数、履修相談数
	学生の課外活動への寄与	件数
	ファカルティディベロップメント参加	件数
	国際交流実績(正規留学生受入れ)	受入れ大学院・学部留学生数
	国際交流実績(研究生等受入れ)	外国人受入れ大学院・学部研究生数

# 研究カテゴリーの評価項目

評価項目	評価点算出の対象データ
学術著書(単著)	総ページ数
学術著書(全体共著)	総ページ数
学術著書(編書・編著書)	総ページ数
学術単行書籍(分担参加)	本数
特定課題研究報告書(単著)	冊数
特定課題研究報告書(全体共著)	冊数
特定課題研究報告書(分担参加)	本数
その他の書籍掲載文(研究活動関連、出版機関の明記された単行本に限る)	本数
訳書(学術関連書)	ページ数
作品等解説・解題 (出版機関の明記された単行本に限る)	ページ数
校閲・監修	ページ数
論文(単著)	本数(査読有無を考慮)
論文(共著)	本数(査読有無、 第一著者を考慮)
その他の雑誌掲載文(研究活動関連、単著)	本数
その他の雑誌掲載文(研究活動関連、共著)	本数
研究発表	件数(招待講演、口頭発表、 国内外を考慮)

評価項目	評価点算出の対象データ
研究成果の新聞報道	件数
研究成果の雑誌等報道	件数
研究成果のテレビ等報道	件数
芸術作品・技術製品・建築作品等	件数
公演・競技	件数
フィールドワーク、その他の研究活動	件数
附属学校との研究活動	件数
受賞	件数、国内外を考慮
工業所有権の取得	件数
年度別科学研究費補助金受入(代表者)	件数
年度別科学研究費補助金受入(分担者)	件数
年度別21世紀COEプログラム受入 (拠点リーダー/プロジェクトリーダー)	件数
年度別21世紀COEプログラム受入 (事業推進担当者、研究協力者)	件数
年度別外部資金受入(代表者)	件数
年度別外部資金受入(分担者)	件数
特記事項	件数

# 社会貢献カテゴリー(1)

評価項目		評価点算出の対象データ
政府や公共機関等における行政的および社会的活動	政府および中央省庁の審議会・委員会委員等としての貢献	任期期間(委員長・委員の別を考慮)
	その他の政府機関および独立行政法人(大学入試センター、大学評価・学位授与機構等)の委員会委員等としての貢献	任期期間(委員長・委員の別を考慮)
	地方自治体の委員会委員等としての貢献	任期期間(委員長・委員の別を考慮)
	公益法人(社団法人、財団法人)の理事長、副理事長、理事、評議員、監査等としての貢献(学会等学術団体は除く)	任期期間(理事長、その他の職の別を考慮)
	公益法人(社団法人、財団法人)の委員会委員等としての貢献(学会等学術団体は除く)	任期期間(委員長・委員の別を考慮)
	NPO法人の理事長、副理事長、理事、監査、委員等としての貢献(学会等学術団体は除く)	件数
	その他の公共団体における役員・委員等としての貢献(学会等学術団体は除く)	任期期間
	政府・公共機関の行事・活動に関する貢献(学会等学術団体は除く)	任期期間
学術の発展に関する社会的活動	株式会社、有限会社等企業における役員・委員等としての貢献	任期期間
	学会等学術団体の会長、副会長、常任理事(常務理事)、理事、評議員、監事(監査)としての貢献	任期期間(会長、その他の職の別、国際・国内の別を考慮)
	学会等学術団体の機関誌および学術雑誌の編集委員等としての貢献	任期期間(委員長、その他の職の別、国際・国内の別を考慮)
	学会等学術団体の事務局および委員会の委員等としての貢献(編集委員会の委員等は除く)	任期期間(委員長、その他の職の別、国際・国内の別を考慮)
	学会大会の企画・運営における貢献	件数(国際・国内の別を考慮)
	学会大会における講演会・シンポジウム等の企画・運営における貢献	件数(参加人数、国際・国内の別を考慮)
	学会大会以外の講演会・シンポジウム等の企画・運営における貢献	件数(国際・国内の別を考慮)
	その他の研究集会の企画・運営における貢献	件数(国際・国内の別を考慮)
芸術・スポーツイベント等の企画・運営における貢献	件数(国際・国内の別を考慮)	
研究助成金、研究プロジェクト、研究員等の募集事業における審査員としての貢献	件数	

# 社会貢献カテゴリー(2)

評価項目		評価点算出の対象データ
社会に対する教育的および啓発的活動	公開講座(本学ないしその部局等による主催)	件数
	一般向け講演	件数
	一般向け講習	件数
	高校等における出張講義	件数
	前項以外の高校等における活動	件数
	新聞への投稿・寄稿・書評・コメント等掲載	件数
	雑誌への投稿・寄稿・コメント等掲載	件数
	テレビ・ラジオへの出演	件数
	各種教育相談業務(学内の学生に対する相談を除く)への対応	回数
	その他の社会教育的ないし啓発的活動	件数
その他の社会的サービス活動	国際交流活動における貢献	活動時間
	医学的診察・治療業務における貢献	診療・治療時間
	心理相談業務における貢献	相談者数
	上記以外の社会的サービス活動における貢献	活動時間
社会的活動に対する受賞	社会的活動に対する受賞	件数
その他特記事項	特記事項	件数



# 大学運営・経営カテゴリーの評価項目

評価項目		評価点算出の対象データ
全学的な管理・運営における貢献	学長、理事、副学長(理事を除く)、部局長、研究教育評議員、附属校園長としての貢献	役職(役職ごとに配点異なる)
	室員等としての貢献	室長は除く(評議員評価にすでに含まれている)
	全学的常設委員会の委員等としての貢献	委員長・委員の別を考慮
	全学的WGの委員等としての貢献	委員長・委員の別を考慮
	全学的行事・活動およびその他の大学を代表した活動に関する貢献(大学説明会に関する貢献など)	件数
	入試問題作成(学部)	出題数
	入試問題採点(学部)	日数
	入試問題作成(大学院)	出題数
	入試問題採点(大学院)	日数
部局(学部、大学院研究科、センター等)の管理・運営における貢献	学科長、センター長、専攻長、系長、代議員、講座主任、コース主任としての貢献	件数
	部局の常設委員会の委員等としての貢献	委員長・委員の別を考慮
	部局のWG委員等としての貢献	委員長・委員の別を考慮
	部局の行事・活動およびその部局を代表した活動への貢献(学部案内の企画・編集に関する貢献など)	件数
学科等(学科、講座、コース、専攻、系、各センター等)の管理・運営における貢献	学年担当としての貢献	件数
	学科等の行事・活動およびその学科等を代表した活動への貢献(オープンキャンパス事業に関する貢献など)	件数
その他特記事項	特記事項	件数

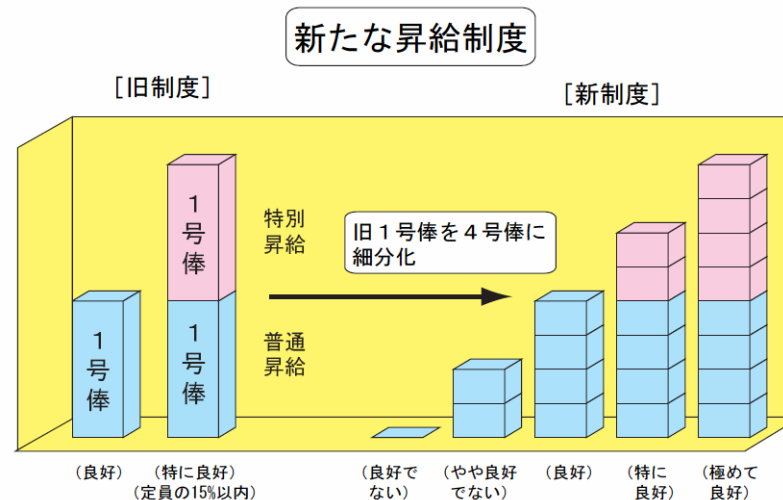
# 教員評価結果の給与査定への反映

## 目的

- 研究・教育・業務のあり方の改善
- 人材の育成と確保
- 人材の的確な任用(？)
- 勤務の結果に対する適切な処置
- 勤務意欲の向上

# 俸給表の大幅な改訂

- 従来の1号俸を4号俸に細分化  
(平成18年4月1日より)
- 評価結果の給与へのきめ細かな反映が可能



新制度での  
1号俸の差  
3,100 ~ 200円  
(若手) (高俸給)

# 査定の方法

- 個人活動評価ランクを昇給に反映させる

評価ランク	勤務成績	昇給号俸	割合
I	A: きわめて良好	8	5%
II	B: 特に良好	6	20%
III	C: 良好	4	75%

注) 55歳未満の一般職員の場合

勤務成績はD, Eもある

実際の昇給号俸は、平成22年まで各区分とも1号俸ずつ抑制

# 評価制度の導入による改善点

- 昇給基準の明確化・客観化  
(従来の特別昇給は、基準がややあいまい)
- データ入力を通して、各教員が自己の活動状況を振り返る機会となる
- 評価結果のフィードバックにより、各教員が自己の(相対的な)活動状況を客観的に把握

# Ⅲ. お茶大の教員評価の問題点

# 問題点1

異なる分野の業績を、統一的な基準で評価することの難しさ

- 研究分野の違いによる重点の置き方の違い
  - 理系：研究論文が主
  - 文系：著作を重視
- 評価対象となる業績に入れる判断基準が各個人により異なる

# 問題点2

## データ入力の問題

- 全教員が入力を完了するまでに時間と手間がかかる
- 全教員がすべての業績を完全に入力しているわけではない



# 問題点3

自己申告制であること

- 入力されたすべての業績を評価担当の係りがチェックすることは不可能に近い

# 問題点4

## 評価するカテゴリーの項目数の偏り

- 大学運営・経営の項目は他に比べて少ない

	教育	研究	社会 貢献	大学運 営・経営	計
項目数	22	32	34	16	104

## IV. お茶大の教員評価の今後の課題

# 今後の課題

- 評価項目の見直し
- 各評価項目の配点の見直し
- 仕事量は増加しないが、より正確な評価方法の模索
- 評価結果を昇給に反映させる方法の見直し
  - より良い評価方法・処遇への改善  
(頑張っている人が評価されるシステムへの改善)
  - より良い教育・研究活動へ向けて

# おわりに

- お茶大の個人評価制度の開始から3年経過
- 問題点の洗い出し
  - 評価方法の見直し・改善
- 大学だからできる新しい評価の尺度・評価制度の模索
- 小規模大学だからできる業務改善